

今村復興大臣岩手県訪問ぶら下がり会見録

(平成29年1月18日(水) 16:45-16:50 於) 岩手県野田村)

1. 質疑応答

(問) 今日には震災と台風の被害のあったこちらの(下安家漁業協同組合さけ・ます)孵化場を御覧になれまして、感想からお願いします。

(答) 話には聞いていましたけども、これだけ津波と、それからまた台風ということで大変だったなということを改めて感じました。

(問) 今後、大臣として、どのように復旧に関して施策とかをやっていこうと思っていられっしゃいますか。

(答) できるだけことは応援したい。せっかく今まで、さっき聞いたら戦後間もなくからここでやってこられたということで、その伝統を守って、この地域の大事な産業だと思えますから。今、なりわいの再生というところに大きく今ウエイトを移していますから、しっかり応援していきたいと思えます。

(問) 今日には岩手県内をほかにも御覧になられたと思えますが、印象に残ったところを教えてください。

(答) 最初行ったのは洋野町で、ウニの栽培施設というのは初めて見まして、ウニというのはああいう栽培ができるというのは初めて分かったし、しかしまたそれを手作業でやらなきゃいけないというのも大変だなと思えました。しかし、大変おいしいし、そういった御苦労をしのびながら、これからウニをしっかり味わっていきたいというふうに思えますし、また、いろんな方に宣伝もしていきたいというふうに思えます。

(問) 今年震災から6年になりますが、改めて今年1年、復興大臣のかける思いみたいなのを話し下さい。

(答) さっき普代村にも行ってきましたが、あそこは「二度あることは三度あってはならない」という元村長さんの言葉が石碑に書いてありますけれども、そのとおりであって、やはりこうやって我々は災害列島に住んでいるわけですから、そこに知恵を働かせて、どうやって防災をやっていくかということが、これはもう三陸地方だけじゃなくて日本全国の課題だなということを改めて感じました。ああいうふうにしてしっかり守っていけば被害も少なく済む。そしてまた、復旧・復興にかかる大きな金よりも、むしろ予防措置的なことをやった方が経済的にも安上がりだということを改めて感じました。ですから、大変この地域に限らず日本列島、大変でありますけど、この三陸の復興を念頭に置きながら、これからも全国の防災の参考にしていきたいというふうにつくづく感じております。

(問) 2点お願いします。今日視察してみて、実際、今、復興に必要な課題はどのような点にあると思えますか。

(答) さっきも言いましたけど、インフラの関係は少しずつでも立ち上がって姿が見えてきています。是非このなりわいの再生、産業の再生ということをしつかりやっぴいかなきゃいけないなということを改めて感じました。

(問) あと、今日、サケ・マス孵化場を御覧になられて、岩手の基幹産業が水産業ということ、震災と台風で漁業者の収入が減っているという中で、このままだと復興庁の目指す復興のあるべき姿というものにもたどり着けないなと思うんですけども、漁業者の支援というのはどういふふうに考えていらっしやいますか。支援といふか、どういふふうに支えていくか。

(答) これはやはり皆さんの意見を、こうしてくれという話をまず聞くのが一番かなというところ、です。そして、さっきもちょっと話しましたが、漁業補償みたいな保険制度、そういったものもあることはあるんです。ただ、聞いたら孵化場の関係にはやっぴいなかったといふので、そういったものを今後、対象にして、そういったものをやらなきゃいけない。そして、やはり大事なことは、三陸沖といふのは正に世界三大漁場といふところで、すばらしい漁場ですから、そういうものを我々は持っているということをしつかり念頭に置きながら、ここでまたいろんな漁業を振興するといふこと、これはこの地域だけじゃなくて、日本人そのもの、全国にとっても大事なことだと思ひます。こんな恵まれた水産物、漁業資源を是非しつかり味わえるといふこの幸せを体感できるためにも、全国にアピールをして、しつかり応援をしていきたいといふふう、に思ひます。

(以 上)